

No. (34) 平成 30 年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業成果報告書

| | | | | |
|-------------|--|--|-----|--------------|
| 事業名称 | 松澤宥アーカイブ活用プロジェクト | | | |
| 実行委員会 | 松澤宥アーカイブ活用実行委員会 | | | |
| 中核館 | 長野県信濃美術館 | | | |
| | 住所 | 〒380-0917 長野県長野市大字稲葉字八幡田沖 2413-11 長野県南俣庁舎内 | | |
| | TEL | 026-232-0052 | FAX | 026-232-0050 |
| | ホームページ | http://www.npsam.com/ | | |
| 構成団体 | 般財団法人プサイの部屋、三澤先生記念文庫運営委員会、スワニミズム | | | |
| 事業開始時点の課題分析 | <p>松澤宥（1922-2006）は、長野県諏訪郡下諏訪町で生まれ、下諏訪町を拠点に国内外に芸術を発信しつづけた、日本を代表するコンセプチュアル・アーティストである。現在でも松澤宥自宅は下諏訪町に所在し、松澤宥がアトリエとして使っていた通称「プサイの部屋」、また松澤作品及び膨大な資料群が松澤邸内に残っている。しかし、これまでこれらの文化資源は下諏訪町ではその存在がほとんど知られてこなかった。</p> | | | |
| 事業目的 | <p>松澤邸に残る資料（プサイの部屋、松澤宥作品、アーカイバル資料群）は、松澤宥という世界的芸術家が残した下諏訪町また長野県が誇るべき貴重な文化資源である。本事業では、下諏訪町にある松澤宥に関わる文化資源を活用し、松澤宥顕彰およびアーカイブの普及を、美術館を中心に専門家と市民を巻き込んで目指す。</p> | | | |
| 事業概要 | <p>下諏訪町および松澤邸に残る文化資源（プサイの部屋、松澤宥作品、アーカイバル資料群）を通して、松澤宥顕彰およびアーカイブの普及を行った。具体的には、① 松澤宥ゆかりの地「泉水入瞑想台」フィールドトリップ②諏訪清陵高校 特別授業③少年少女の星COSMOSでのφ（プサイ）郵便局の設置④松フェス（松澤宥フェスティバル）⑤トークイベント「松澤宥を語る」⑥シンポジウム「松澤宥アーカイブの現状と活用」を実施した。</p> | | | |
| 実施項目 | <p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニューの促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> | | | |
| 実施体系 | <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p> | | | |

| | |
|---------------|--|
| 施後の 成果・効果等 | <p>松澤宥や松澤宥アーカイブに関して、高校生、地元の一般の方々、観光で訪れた若い世代の方々、松澤宥の美術やアーカイブに関心のある専門家・関係者など、幅広いターゲットに向けた多くのイベントを開催することができた。</p> <p>構成団体の関係者により、それぞれの事業が効果的に広報されたため、当初予想よりも多くの方に参加いただけた。また、報道として新聞記事が多く掲載され、県域で本事業が開催されていることが広報できた。</p> <p>松澤宥自身や松澤宥アーカイブについてもこれまで地元ではほとんど知られていなかったが、本事業により普及のきっかけを作ることができた。</p> |
|---------------|--|

【事業実績】

1. 2018年10月14日(日)13:00—16:00 参加者 46名

松澤宥ゆかりの地「泉水入瞑想台」フィールドトリップ

<日程>

13時 諏訪大社秋宮 鳥居下集合

↓バス(車) 15分

13時20分 御射山社前

↓徒歩 10分

13時30分 御射山社

↓散策 15分

↓徒歩 15分

14時5分 泉水入瞑想台

説明、パフォーマンス

15時15分 瞑想台出発

↓徒歩 25分

15時40分 御射山社前

↓バス(車)15分

16時00分 諏訪大社秋宮・解散



参加者 46名。諏訪大社下社秋宮、御射山社、泉水入瞑想台跡などを巡った。秋宮から御射山社は、バスや自動車での移動。御射山社から瞑想台までは山道を徒歩というルートだった。途中、スワニミズムの石埜三千穂さんから諏訪信仰についての解説があり、泉水入瞑想台跡に到着。泉水入瞑想台はすでにその痕跡がなく、参加者の皆さんの記憶や写真記録を参考に場所を想定。春原敏之さんから、瞑想台建設や音会の様子などについてのお話をいただいた。春原さんからは1971年の音会の際に展示された田中孝道さんの絵馬も見せていただき、また、ご自身が音会の際にも展示した〇〇〇〇の小旗が参加者に配布され、瞑想台付近に立てられた。その後、藤森寛行さんによる木遣披露。また、堀川紀夫さんは3-Bar Tensegrityを供し、高橋睦治さんは大きな紙に追悼のオマージュを書いたものを読み上げるパフォーマンス、小幡八

郎さんは湯口沢に瞑想台を作った際の写真を供するなど、アーティストの方々はそれぞれパフォーマンスを行われた。徒歩で御射山社、車で秋宮まで戻り、解散した。「充実した内容でまた同じルートで回りたい。」「八島湿原などの他の松澤ゆかりの地を含め、解説を交えたフィールドトリップも行ってはどうか」などの言葉をいただいた。

2. 2018年10月16日(火) 8:50-11:10

諏訪清陵高校 特別授業「アートってなんですか？松澤宥と諏訪」

講師：嶋田美子(美術家・東京大学教養学部非常勤講師)。

対象：高校2年生。1時限 8:50～9:55 12人。2時限 10:05～11:10 18人。



授業は、1960～70年代の読売アンデパンダン、ハイレッドセンターなどで美術家たちがどのようなことを「美術」として発表したか、についてスライドを交えて解説。松澤宥も教えていた美学校で赤瀬川原平が実際に行った授業でもある「千円札を記憶だけで描いてみる」ワークショップも交えて、概念と物質の関係性を実体験し、「アートはどのようなのか」について発表した。その後、松澤宥と

諏訪(下諏訪町)の関係やプロフィールなどの話に移り、七島八島を舞台にした「荒野におけるアンデパンダン 64」展などの概念芸術、はがき絵画、「消滅」やコミュニケーションについてなど松澤宥芸術の中核的な話が展開された。

最後に、11月3日に下諏訪町で開催される「少年少女の星 COSMOS」に向けてメールアートをそれぞれ発信しよう、というものの課題がでて授業を終了した。

授業に出席した高校生からは「昔の美術館での展示の方が自由でおもしろそう。今の芸術やアーティストの方が型にはまっているな、と感じた。」「自分たちのアートの概念を打ち破っていく必要があるんだな、と感じた」「アートの概念が変わった。アートは見るものだと思っていたけど、そうじゃない考え方があるんだな、と感じた。」「アートといっても何か作らなくても、存在を伝えるというようなことでもいいんだな、と思った」「わからない方がおもしろいこともある」など、の感想が聞けた。

3. 2018年11月3日(土・祝)10:00～15:00

φ(プサイ)郵便局の設置

場所：少年少女の星 COSMOS

(下諏訪町御田町・町営四ツ角駐車場)

一般向けレクチャーの一環として、メールアートプロジェクトを実施。メールや郵送でメールアートを受け付けるとともに、下諏訪町御田町で地元の人たちによって行われているイベント「少年少女の星



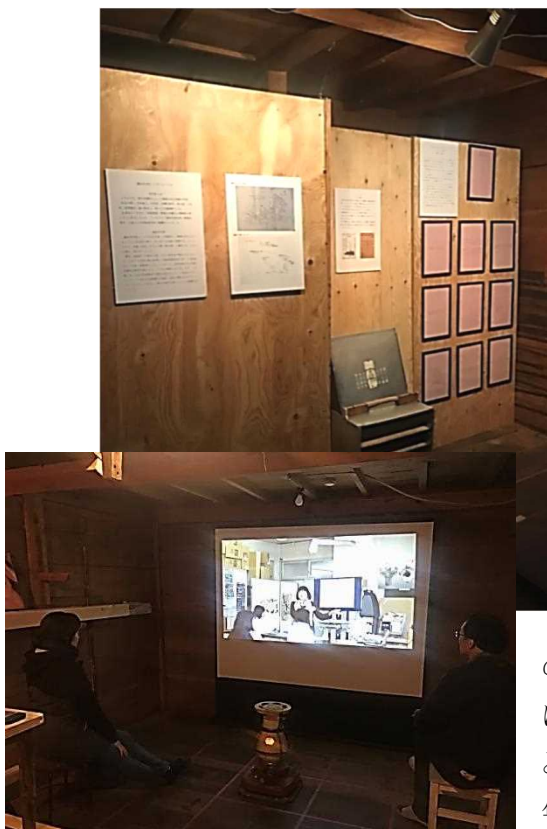
COSMOS」に仮想の郵便局φ(プサイ)郵便局を設置し、メールアートを受け付けた。

メールアートは、松澤宥の代表的芸術行為。当日は、イベントに参加していた、老若男女がメールアートを作成して、ポストに投函するなど、メールアートを体験していただいた。

4. 2018年11月15日(木)～11月21日(水)17:00—20:00

松フェス(松澤宥フェスティバル)

場所: マスヤゲストハウス(長野県諏訪郡下諏訪町平沢町 314)



マスヤゲストハウス内の蔵を使って展示を行った。展示内容は、松澤宥や松澤宥が教鞭をとった諏訪美学校についての解説パネル。また、赤瀬川原平がデザインした美学校のマーク入りの岡持ち(かとう食堂蔵)や1972年第5回ドクメンタのために中島由夫に送られた松澤宥のプサイマンダラも合わせて展示した。φ郵便局に送られたメールアート作品も並べたほか、諏訪清陵高校での授業の映像も放映した。マスヤゲストハウスは、全国から宿泊客が来る人気のゲストハウス。特に若者の宿泊客が多く、来場者からは、「松澤宥のことを初めて知った」「こんな人が下諏訪町に住んでいて、美学校に諏訪分校があったのも初めて知った」などの声があった。短い期間の展示であったが、複数の新聞に「松澤宥さん作品 地元で発信」「松澤宥業績顕彰」などと取り上げられ、展示内容とともに、実行委員会の今年度の活動を県内で広く伝えることができた。

5. 2018年11月18日(日) 13:00～15:30

トークイベント「松澤宥を語る」

場所: マスヤゲストハウス(長野県諏訪郡下諏訪町平沢町 314)

参加者: 35名

一般向けレクチャーとして、生活と芸術活動の拠点を下諏訪町に置き続けた松澤宥を、地元の人たちにもっと身近に知っていただくために、生前の松澤宥と交流のあった人たちに、自らの知る松澤宥について語っていただくトークイベントを行った。松澤宥と同窓で諏訪郡内で教員でもあった石埜正一郎氏の長男、石埜穂高氏が司会。諏訪出身で現在も農業を行いながら制作を続けるアーティスト、宮坂了作氏が松澤宥の芸術を振り返るとともに、自身の活動と松澤宥の関係を語った。次に、諏訪実業高校下諏訪分校でともに教鞭をとった青木靖恭の長男である陶芸家青木英侃氏が下諏訪町での松澤宥の芸術を育んだ交流関係について話した。その後、松澤宥の孫であり松澤桂子さんと佐々木梓さんが祖父としての松澤宥について語った。また、1970年代から松澤宥と

交流し、作品を北欧で発表してきた中島由夫さんによる松澤宥の交流に関する話やパフォーマンスもあり、会場は盛り上がった。



<プログラム>

○宮坂了作

「松澤宥の-artを語る」

○青木英侃

「下諏訪アーティストの交流を語る」

○松澤桂子・佐々木梓

「祖父・松澤宥を語る」

司会:石埜穂高

ゲスト:中島由夫(アーティスト)

6. 2019年2月16日(土) 13:30~16:30

シンポジウム「松澤宥アーカイブの現状と活用」

場所:下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館

参加者:72名

美術史研究、アーカイブ研究の両者の専門家を迎えて、下諏訪に残る松澤資料群を今後どのように継承し、活用していくかについて議論した。72名と大勢の方が参加され、長時間にも拘わらず、最後まで席を立つ人もほとんどいないという盛会であった。

「松澤宥」「アーカイブ」という一般の方には耳慣れないタイトルであったため、専門家、関係者の参加が多いのではないか、と

予想していたが、地元の一般の方の来場者も多く、会場からのご意見として、「アーカイブとは何なのか、もう少し初歩的な話もほしかった」という言葉も上がった。

しかし、同時に「松澤宥アーカイブを使った、1951年下諏訪町で実際に開催された「RATIの会」の研究が面白かった。どのような会であったのか再現してほしい」などのアーカイブ活用についてのご提案などもいただいた。

松本市美術館、茅野市美術館、辰野町美術館など、地元の美術館学芸員、信州大学教員、美術専門学校教員等、地元の美術関係者も聴講に訪れていただき、今後の松澤宥研究、アーカイブの活用などにつながるシンポジウムになった。



<プログラム>

13:30~15:00

第1部 松澤宥とアーカイブに関する報告

①松澤春雄(一般財団法人松澤宥プサイの部屋 代表理事)

「松澤宥アーカイブの概要」

②谷新(美術評論家・前宇都宮美術館館長)

「松澤宥の人と芸術—出会いの頃からの思い出」

③嶋田美子(アーティスト、60年代美術研究)

「Expose:松澤宥アーカイブについて」

④橘川英規(東京文化財研究所 研究員)

「松澤宥アーカイブの芸術史研究への活用—1951年に諏訪市で開催されたふたつの前衛芸術イベントを例に」

⑤平賀研也(県立長野図書館館長)

「アーカイブの活用を考える。松澤宥アーカイブのこれから」

休憩(15分)

15:15~16:30

第2部 パネルディスカッション「松澤宥アーカイブの活用について」

コーディネーター 松本透(長野県信濃美術館館長)

パネリスト:第1部 報告者の皆様